

# アカイカ流し網代替漁法開発調査

— 抄録 —

黄金崎 栄 一・開運丸乗組員：高井 英 和 他

## 発 表 誌 名

平成4年度流し網代替漁法開発調査報告書 平成5年3月（水産庁）

## 抄 録

1991年12月の国連決議により、92年12月をもってアカイカの公開流し網が停止された。本調査は流し網に変わる漁法を開発するため、当场「開運丸」がこの調査に参加し漁場環境及び漁獲試験等の調査を実施した。

### I. 調査時期及び海域

平成4年7月6日～8月5日まで、試験船「開運丸」（299トン）により北緯39度～北緯43度、東経171度～西経178度の北太平洋の海域で、14日間延べ16回の総業を実施した。

### II. 調査方法

使用した漁具は、ダブルの自動イカ釣り機を左舷9台右舷7台、シングル of イカ釣り機を右舷2台計18台を使用し漁獲試験をおこなった。

イカ釣りの機種は、新型機種としてサンメイSE-70型5台SE30型2台（コンピューター内蔵）、従来型としてサンメイSE-50型3台（コンピューター内蔵）SE-5・8型8台を設置した。

また、釣り針は、今回の調査の主力のジャンボ針、新開発のロング針、県独自でアサリ針を使用しそれぞれの釣獲について調査した。

### III. 調査結果

1. 今調査の漁獲結果は、16回の操業で1,014尾・2,449kgの漁獲があり、魚体は外套長27～51cm・モード42cm・平均体重2.4kgであった。
2. 釣り機についてCPUEで比較すると、16回の操業で従来機種が新型機種を上回った操業回数は2回でいずれも僅差の違いであったが、新型機種が上回った場合は圧倒的な差がみられた。
3. 釣り針については、ジャンボ釣、ロング針が高いCPUEであったが、アサリ針の釣獲結果はあまりよくなかった。
4. 脱落調査結果は全体では24%の脱落率であったが、コンピューター内蔵型の機種に対して、コンピューターの付いてない機種の脱落率は33%であった。
5. 調査海域の水温は、0mで13℃～16℃・50mで10℃～15℃・100mで8℃～12℃の水温帯であった。水温と漁獲量については明瞭な結果はえられなかった。

### IV. ま と め

今回の調査で分かったことは、釣り機についてはコンピューター内蔵型の釣り機がその機能を活かして釣ることによって漁獲効率が上がること、つまり従来の上下及びシャクリだけの単純な動きだけでなく、上げ下げ時にいろいろな運動を加えアカイカが針に掛かった時水際でいかにソフトに引き上げるかによって、かなり漁獲に違いが出るものと考えられる。

釣り針については、今回の結果ではジャンボ針・ロング針の結果が良かったが、今回の釣獲された魚体は比較的大型のもので、針傘の大きい2種類がたまたま良い結果となったと考えられる。このことから、魚体により釣り針を選択することによりさらに釣獲率の向上があるものと考えられる。

今回の調査で課題となったことは、漁場探索の方法である。漁獲技術が向上しても漁場探索手法が確立しないと漁獲量の向上は望めない。今後はアカイカの生態研究を中心とするデータの蓄積が必要と考えられる。